

大原省三先生の生涯

内 田 博 幸

日本聾史学会・長野県松本ろう学校同窓会

あらまし：大原省三（おおはら しょうぞう・1920(大正9)年～1992(平成4)年)先生は、東京聾啞学校（旧筑波大学附属聾学校 → 現筑波大学附属聴覚特別支援学校）美術科卒業後、洋画家や教育者として活躍。そして全日本ろうあ連盟（参与・手話研究委員会委員）を務め、ろうあ界で最も偉大な人物である。

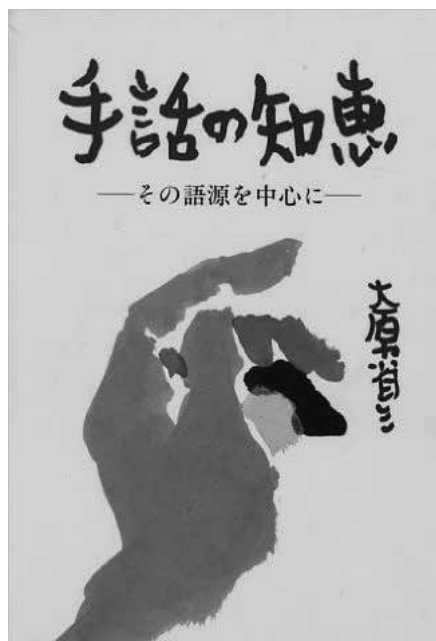
1. はじめに

大原省三先生をご存知でしょうか？

私の母校である東京聾啞学校（旧筑波大学附属聾学校）美術科の大先輩で、洋画家や教育者としてご活躍され、偉大な業績を調査し、「大原省三先生の生涯」をレポートしたいと思う。

2. 大原省三先生の生い立ち

大原省三先生は、秋田県能代市に生まれた。9歳の時熱病のため聴覚を失ったため、秋田県立盲啞学校（現秋田県立聾学校）で学んだ。13歳で上京の東京聾啞学校（旧筑波大学附属聾学校）へ転校し



「手話の知恵」



「大原省三」

て学んだ。絵が好きで、後に同校油絵科（現美術科）に入り絵の研究に励んだ。特に人物画の作品に優れ日展（日展会友）や光風会展（光風会会員）に早くから出品し数回の入選を重ねた。ろう者として美術界の第一人者になった。その才能を認められ、美術科教諭となり、教え子のために美術教育に尽くした。

定年後、全日本ろうあ連盟・手話研究

委員会委員を務め、手話の研究をしながら特に著書「手話の知恵」の本を作り有名になった。また全日本ろうあ連盟顧問や母校同窓会顧問なども務め、ろうあ界で活躍された。更に、長年にわたっての文化や教育などの功績が世に認められ、1991年勲五等双光旭日章を受けた。

3. 大原省三先生の作品を見て



「光風会展」



「色紙」

4. 大原省三先生の生家を訪ねて

母校・筑波大学附属聾学校美術専攻科の大先輩の大原省三生の生家を訪ねた。秋田県・能代駅前大通りに「洋画家大原省三生誕跡地」標柱を発見した。更に「大原呉服店」内に大原先生の絵画（人物、風景、こけし等）展示が多数あり、非常に素晴らしく、私（元光風会会友）は母校の先輩を誇りに思う次第である。



「大原呉服店」



「こけしの絵」



「自画像」



「生家の標柱」

【標柱の碑文】

昭和13年光風会展初入選。以来連続入選。昭和16年文展（現在の日展）初入選、

以後31回入選後、日展会友となる。昭和17年光風会展にて最高の光風会賞を受ける。昭和24年国立聾唖学校（現在、筑波大学附属聾学校）文部教官。昭和36年、同高等美術科主任教諭。昭和48年博報賞。昭和59年ヘレンケラー教育賞受賞。平成2年市記念特別表彰さる。平成5年3月大原省三を偲ぶ絵画展を市で開催す。

▲平成10年12月建立 能代歴史ロマンを語る会

参考資料

- ・筑波大学附属聾学校美術科OB
- ・筑波大学附属聾学校同窓会「同窓会史」
- ・大原省三作品集
- ・長野県聴覚障害者協会機関紙「ろうあ信州」他

秋田県でお世話になった方々

- ・日本聾史学会会員：山本光矩（秋田県）
- ・秋田聾学校同窓会長：高橋雅人